

## Q ワクチン接種後に脇のリンパ節が腫れました。注意すべきことはありますか。

**A** ワクチン接種後に、接種した側の脇や首などのリンパ節が腫れることがありますが、時間の経過とともに自然に治ります。乳がん検診は、ワクチン接種前に受けるか、ワクチン接種後に受ける場合は、リンパ節が腫れている原因について誤った判定がなされないよう、検診医にワクチン接種を受けたことを伝えると良いでしょう。

新型コロナワクチン接種後に、接種した側の脇の下や首などのリンパ節が腫れることがあります。厚生労働省が実施した、初回（1回目・2回目）接種における[健康状況調査](#)においても、例えばファイザー社のワクチン接種後に腋窩リンパ節腫大を含む反応性リンパ節腫脹が2%程度報告されています。なお、ワクチン接種後のリンパ節の腫れ自体は、免疫が反応しているためと考えられており、時間の経過とともに自然に治るものです。

ワクチンによるリンパ節の腫れは、一時的なものですので、乳がんによって起こりうるリンパ節の腫れとは異なるものです。乳がん検診は、ワクチン接種前に受けるか、ワクチン接種後に受ける場合は、リンパ節が腫れている原因について誤った判定がなされないよう、いつ、どちらの腕にワクチン接種を受けたか、検診医に伝えると良いでしょう。

なお、[日本乳癌検診学会](#)は、「検診としてのマンモグラフィや乳房超音波検査はワクチン接種前に施行するか、2回目のワクチン接種後少なくとも6～10週間の間隔をおいてから施行することが望ましい」としています。また、[米国のプレスト・イメージング学会](#)は、可能であれば乳がん検診は、1回目接種の前か、2回目接種から4～6週間の間隔をあけることを考慮することを推奨しています。

また、追加（3回目）接種においては、初回（1回目・2回目）接種時と比較して、リンパ節の腫れの発現割合が高いこと（ファイザー社：5%程度、武田/モデルナ社：20%程度）が、米国で実施された臨床試験の結果の中で報告されています。追加接種の副反応については[こちら](#)をご覧ください。

（参考資料）

[日本乳癌検診学会「乳がん検診にあたっての新型コロナウイルス感染症\(COVID-19\)への対応の手引き」](#)  
[Acad Radiol. 2021 Aug; 28\(8\): 1058-1071](#)

(Lymphadenopathy Following COVID-19 Vaccination: Imaging Findings Review)

[米国のプレスト・イメージング学会の推奨](#)